



# 3月定例市議会 市長所信

3月議会が3月1日から25日までの25日間の日程で開催されました。開会日には、議案審議に先立ち、当面する市政の重要課題について、市長より所信が表明されます。今議会で表明された主な内容につきましては、次のとおりです。

## 阿南駅周辺の整備

阿南駅周辺の市街地整備を促進し、交通ネットワークの充実を図るためには、駅前広場やアクセス道路の整備が必要で、これらの事業を推進するためには、都市再生特別措置法に基づく立地適正化計画に、阿南駅周辺整備事業の必要性を位置づけるとともに、阿南駅周辺の将来像を市民の皆さまと共有し、官民連携による人づくりと組織づくりを行うことが重要となります。

このことから、代替用地として先行取得した元商業店舗用地を有効活用し、多目的広場や駐車場等の整備を行い、隣接する阿南駅前児童公園と一体的な緑の空間づくりを整備することで、子どもや高齢者等がふれあい、交流できる公園として活用します。

また、人づくり・組織づくりを行う官民連携の方策等を示した事業計画案を作成し、阿南駅周辺における魅力づくりや賑わいの創出に取り組みます。

## 牛岐城趾公園施設の整備

牛岐城趾公園は、春に城山一帯をソ

## 子育て支援の取組

本市は、次代を担う全ての子どもたちが健やかに育ち、安全で安心して子育てできる環境づくりを進めるため、総合的な子育て支援施策の展開と体制整備に力を入れています。

その柱の1つとして「幼保一体化」を推進しており、4月に新野保育所と新野幼稚園を統合した認定こども園「新野こどもセンター」を開設します。本市における「公立認定こども園」の開設は、今津、平島、橋、岩脇に続いて5カ所目となります。

同センターは、保育所と幼稚園の機能を併せ持つ「保育所型認定こども園」で、0歳児から就学前の児童まで一貫して保育サービスを提供することができますほか、4歳児、5歳児においては、幼稚園と同様に保護者の就労に関係なく入所していただけます。開所後は、乳幼児の在宅親子を対象に「地域子育て支援事業」も実施し、地域の子育て支援拠点としての機能を発揮してまいります。

今後は、宝田や見能林をはじめ、全市的に保育所と幼稚園の認定こども園化を進め、多様化する就学前児童の教育・保育ニーズに添えてまいります。

また、就学後の児童を対象にした「放課後児童クラブ」について、4月から、横見小学校の校舎の一部を利用して、放課後児童クラブを開設します。

メイヨシノが埋め尽くす桜の名所として、また、公園展望部に、「光のまちづくり」事業発祥の地として、LEDオブジェ「キラキラ・ドーム」を設置し、「光のまち阿南」にふさわしい観光・交流の場として、大変重要な施設であります。

しかしながら、キラキラ・ドームは、設置後10年を経過し、経年劣化が著しいことから、LED、電気設備等について、改修する必要があると見込まれています。

このことから、「阿南市牛岐城趾公園整備に係る日亜化学工業基金」を活用し、最新LEDとソフトウェアなどの技術により、キラキラ・ドームをリニューアルします。

また、牛岐城趾公園の北側斜面に、急傾斜地の土留め対策として設置を予定しているコンクリート壁もあわせて整備することで、牛岐城趾を保存してまいります。

## 消防防災設備等の充実強化

西日本を中心に甚大な被害をもたらした平成30年7月豪雨災害は、記憶に新しいところです。

学校施設を利用して放課後児童クラブを開設するのは、本市では初めてであり、今後、運用面等の課題等を検証し、より安全で安心な放課後児童対策を推進してまいります。

こうした子育て支援の取組をより効果的、効果的に実施するため、組織における推進体制を見直し、就学前の児童に対する施策は保育部門で、また、就学後は教育部門に再編し、従来の制度の枠にとらわれない柔軟かつ多様な対応と、ライフステージに合った分かりやすい行政を推進してまいります。

## 「住んでみんなでANAN事業」を創設

子育て世帯や移住・定住世帯を積極的に支援することにより、人口の維持・増加や地域経済の活性化を図ることを目的とする施策の一つとして、49歳以下の「子育て世帯」、「移住世帯」等が住宅を取得する場合に、一定額を補助する「住んでみんなでANAN事業」を創設します。

この事業は、単なる補助金施策ではなく、住宅金融支援機構と連携することで、同機構の住宅ローン「フラット35」の金利が、当初5年間0・25%引き下げられます。財政支援と金利支援が相乗し、子育て・移住世帯に対する負担軽減効果が、より一層高まり、移住定住人口の増加に繋がると考えられることから、「阿南創生の布石」とな

こうした中、本市は、豪雨災害の教訓等を踏まえて、消防防災設備等の充実強化を図る必要を鑑み、老朽化した現行車両の買い替えとしてCD-I型災害対応特殊消防ポンプ自動車および同型消防ポンプ自動車各1台、さらには大型の水難救助支援車1台を含む合計3台を同時に整備します。

特に水難救助支援車は、これまでは必要資機材の搬送業務のみの状況でしたが、新規車両では初動活動に特化した機能を有するバス型の導入を計画しており、現行車の収納不足の大幅な改善に加え、出勤途上から潜水隊員が車内乗車することにより、事前準備等の迅速な対応が可能となります。

## 若杉山遺跡について

本市では平成29年度から徳島県教育委員会と合同で若杉山遺跡の調査を実施してまいりました。本遺跡は弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての全国唯一の辰砂採掘遺跡です。

平成29年度に辰砂を採掘していた坑道が見つかり、平成30年度の調査において、この坑道内部から弥生時代後期

のものと期待しています。今後、制度の創設だけに留まらず、他の制度との組み合わせによって、より効果的に子育て世帯の負担軽減や市外流出を防ぐとともに、移住定住を促進し、本市の人口増加や活力向上の一助となるよう、努めてまいります。

## 中央学校給食センター

阿南中学校西側に建設を進めている中央学校給食センターは、3月中旬の完成を目前に、仕上げの段階に入っています。

同センターは、鉄骨造り一部2階建て床面積2888平方メートルで調理能力・炊飯能力ともに実能力4000食、配送する学校は小学校4校と中学校3校を予定しており、災害時等においては、炊飯施設を稼働できる自家発電設備を備えています。

今後のスケジュールは、完成検査の後、舗装工事、備品類の搬入、試運転等を終え、9月からの稼働を予定しています。

## 小中学校の再編について

「学校がなくなると『まち』が寂れる、母校がなくなるのは寂しい、学校はそれぞれ『まち』の中心であり、地域コミュニティの核である」という声が聞かれます。一方、子どもたちが多くの友人たちとかわる中で、多様な

の土器片が見つかったことから「日本最古の坑道跡」であることがわかりました。全国的にも注目度の高い遺跡であり、今後とも引き続き国史跡指定に向けて調査研究に取り組みしてまいります。

## SUPを活用した取組

市内の移住支援団体や地域おこし協力隊等と協働し、近年人気のマリナクティブティである「SUP」(スタンドアップパドル)を活用した取組として、かもだ岬温泉保養センター内の広場にSUP艇庫を設置し、SUP愛好者が集う拠点づくりを行います。

地域資源を生かした体験型観光コンテンツを開拓し、県外はもとより、海外からも定期的に本市へ足を運んでいただく環境を整備することで「関係人口」を創出し、「移住」へと繋げるとともに、地域ブランディングの推進を図ってまいります。

考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて社会性や規範意識を身に付けていくことは重要であるという意見もあります。

文部科学省によれば、小学校の適正な学校規模は、全学年でクラス替えを可能としたり、学習活動の特質に応じて学級を超えた集団を編成したりするために、1学年2学級以上であることが望ましいとされています。

本市の現状は、ほとんどの小学校が1学年1学級の単式学級で、1学級につき2学年から構成される複式学級の学校は3校です。また、本市の小中学校児童生徒は年々減少傾向にあります。この様な状況の下、子どもたちにとって、より望ましい教育環境を整えるため、学校の適正規模や適正配置について、地域住民の方も交えて本格的に議論する必要があること、から、来年度、教育振興基本計画を策定する中で、学校を通じてアンケート調査を実施し、PTA関係者の声を取り入れながら、市を挙げて小中学校の再編を検討してまいります。

紙面の都合上、抜粋して要旨部分のみ掲載しています。全文をご覧になりたい方は、市ホームページをご覧ください。また、後日作成する市議会会議録は、市立図書館等で閲覧することができます。